

盛夏

せいか

夏の暑い盛りの時期。梅雨明けから八月いっぱい期間。うだるような暑さで、特に畑での地熱からくる暑さも厳しいです。



今年の梅雨は短く、気づけば終わり、夏を迎えた京都。八月からは台風シーズンに入り、備えつつ、すぐに動けるようにと警戒しながらねぎ作りを進めています。

古都・事・言 3つの「こと」を伝えます
ことねぎだより

今月のことねぎ

今月、みなさまにお届けする九条ねぎが京都でどのように育ったものなのか、物語（事）を少しでも知っていただき、より美味しく召し上がっていただければと思います。

生命力を感じる、夏葱のお届けです

5月頃に定植を行い、亀岡・美山・丹後で育てた夏葱のお届けです。昨年と同じ頃は、獣害被害を受けて葱の葉先が食べられ、畑を踏みつけられたりと苦しめられましたが、今年は被害も少なく順調に成長して無事に収穫を迎えられました。



年々暑くなっていく京都で、40度越えの日々が近づいている中でも、畑の葱たちはバテる様子もなく、どこか飄々とした面持ちと爽やかな緑色で佇んでいます。仲間のように頼もしく、生命力を感じる夏葱をお届けいたします。

NO.207

2024年8月号

TEL: 075-601-0668



KOTO GROUP

4A



農人たちの畑での作業の様子、THE 農業！の現場の「こと」を発信

夏に思う、農人のものづくりへの想い

美山は市内圃場に比べると、時々吹くひんやりした風が心地良いですが、蒸し暑さはそれなりに身体にダメージを与えます。雲ひとつない青空もキレイではありますが、体力的にも大きく消耗する日も多く、こまめに水分補給、アイスを食べる休憩など取り入れ夏の作業ができています。

年々の自然環境変化の激しい中で、良いねぎをつくることは大変なことであると、農人たちも日々の仕事の中で感じていますが、収穫するねぎの状態が良いと作業のペースも上がり、鎌を入れる感触や、ねぎの香りにも気持ちが高ぶるのがわかります。もちろん、葉先の黄化や部分的な病気などで状態が少し劣るねぎも、少しでも商品にできるように、工場での作業効率を上げられるように、可能な範囲で積極的に選別します。人にも自然にも、収穫作業を通じて、より良い仕事ができるよう努力を続けます。

とある日の農人日記。

夏場の畑での休憩。午前と午後の2回に分けて塩分補給とアイスの支給を行いました。みんなで飲間に等間隔で並びアイスを食べてる様子を見て、去年の夏の光景を思い出しつつ、今年も夏がきたなぁと感じます。(京都市内・池島)



こと京都は「野菜を食べてよう」プロジェクトのサポーター企業です

私たちは、農林水産省が実施している本プロジェクトの趣旨に賛同し、九条ねぎを通じて野菜の消費拡大に取り組めます。

夏空の雲は変化が多く、癒されたりエールをもらいます。